

2:1 ネブカデネザルの治世の第二年に、ネブカデネザルは、幾つかの夢を見、そのため心が騒ぎ、眠れなかった。

2:2 そこで王は、呪法師、呪文師、呪術者、カルデヤ人を呼び寄せて、王のためにその夢を解き明かすように命じた。彼らが来て王の前に立つと、

2:3 王は彼らに言った。「私は夢を見たが、その夢を解きたくて私の心は騒いでいる。」

2:4 カルデヤ人たちは王に告げて言った。・・アラム語で。・・「王よ。永遠に生きられますように。どうぞその夢を私にもべたちにお話してください。そうすれば、私たちはその解き明かしをいたしましょう。」

2:5 王は答えてカルデヤ人たちに言った。「私の言うことにまちがいはない。もし、あなたがたがその夢とその解き明かしとを私に知らせることができなければ、あなたがたの手足を切り離させ、あなたがたの家を滅ぼしてごみの山とさせる。」

2:6 しかし、もし夢と説き明かしとを知らせたら、贈り物と報酬と大きな光栄とを私から受けよう。だから、夢と説き明かしとを私に知らせよ。」

2:7 彼らは再び答えて言った。「王よ。しもべたちにその夢をお話してください。そうすれば、解き明かしてごらんにいれます。」

2:8 王は答えて言った。「私には、はっきりわかっている。あなたがたは私の言うことにまちがいはないのを見てとって、時をかせこうとしているのだ。」

2:9 もしあなたがたがその夢を私に知らせないなら、あなたがたへの判決はただ一つ。あ

なたがたは時が移り変わるまで、偽りと欺きのことばを私の前に述べようと決めてかかっている。だから、どんな夢かを私に話せ。そうすれば、あなたがたがその解き明かしを私に示せるかどうか、私にわかるだろう。」

2:10 カルデヤ人たちは王の前に答えて言った。「この地上には、王の言われることを示すことのできる者はひとりもありません。どんな偉大な権力のある王でも、このようなことを呪法師や呪文師、あるいはカルデヤ人に尋ねたことはかつてありません。」

2:11 王のお尋ねになることは、むずかしいことです。肉なる者とその住まいを共にされない神々以外には、それを王の前に示すことのできる者はいません。」

2:12 王は怒り、大いにたけり狂い、バビロンの知者をすべて滅ぼせと命じた。

2:13 この命令が発せられたので、知者たちは殺されることになった。また人々はダニエルとその同僚をも捜して殺そうとした。

ネブカドネザル王は激しい勢いで隣国を征服していました。その権力は誰からも止められないようでしたが、唯一神だけは権力を上回る方であり、さらにはこの王さえも用いる方でした。この世の権力をも用いるのは神であり、今もそれは変わりません。そこには特徴的な要素があります。

権力のある者に限って、この王のように不安を抱えています。敵が多いからかもしれません。自分の立場がいつおびやかされるかと悩むものです。またこの王の場合のように、その権力のゆえに神はみわざを行われます。ここでも人々がおびやかされたゆえに、ダニエルたちにチャンスがおとずれました。

現代でも私たちにも同じ状況がおとずれるかもしれません。この世の権力を用いられる神を信頼

しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

